

# 日本統治下中等学校の校友会雑誌にみるアジア認識 －研究方法を中心に－

梅野正信\*

(平成26年9月30日受付；平成26年11月5日受理)

## 要 旨

日本による植民地支配下及び実質的な統制下に設置されていた中学校、高等女学校、師範学校では、他の諸学校と同様に校友会雑誌が編纂されていた。校友会雑誌は、行政機関や当局の検閲を受け統制されていたが、生徒による記述が掲載されている点で貴重な史料である。本研究では、台湾、朝鮮半島、関東庁、樺太庁、「満洲国」で編纂されていた校友会雑誌に描かれたアジア認識を考察する。これらの諸地域の校友会雑誌は、これまで本格的な研究対象とされてこなかったが、本稿においては、先行研究と比較して史料分析の方法を中心に検討した結果、誌面構成、誌面を統制する行政・軍、学校側関係者の記載欄、散文や修学旅行に関する記載欄など、題目ごとの記述からアジア認識に関わる関連語を抽出する研究、横断的比較研究が可能であること等を確認した。

## KEY WORDS

Education in colonial 植民地教育, Alumni magazine 校友会雑誌, Asia image アジア認識

## 1 はじめに

本研究の目的は、台湾総督府、朝鮮総督府、関東庁、樺太庁、南洋庁の統治下及び「満洲国」に設置された中等諸学校の校友会雑誌を収集し、校友会雑誌に記載された日本、アジア諸国、欧米、ロシア（当時はソビエト社会主義共和国連邦）諸国等の評価に言及した記述を取り出し、校友会雑誌に表象されたアジア認識の特色と傾向を、雑誌の構成、生徒による記述等をもとに再現することにある。

校友会雑誌は、現在の日本国領にあたる戦前期の日本においてさえ、政府、文部省、自治体、憲兵隊、学校等の検閲<sup>1</sup>や統制から自由ではなかったが、本研究の対象とする地域においてはなおのこと、総督府、学校、教師等の実質的な統制下にあったことがうかがわれ、体制や統治機構の施策や主張を強く反映した誌面構成となっていた。また、日本人教師、日本人学生が優位にある中で作成されたことや、生徒たちの発達段階、執筆者をとりまく内外の環境を考えると、記述の個々を根拠にして執筆者の思想傾向を判断・評価し一般化することには慎重であるべきであろう。しかしそれでも、中等学校への進学率は大学生や高等学校生と比べれば広範な層が進学していたこと、戦時期の雑誌や書簡等が検閲を受けながら一定の史料価値を認められていることを考えれば、彼らが、校友会雑誌という全校生徒を読者としたメディアからどのようなアジア認識を受け取っていたのかを整理・考察する作業は、記載された時代に関わる歴史的作業として、戦後日本に受け継がれたアジア認識の水脈をたどる作業として、少なからぬ意義があるように思われる。

本研究では、以上の点に留意しつつ、校友会雑誌に描き出され、表象されたアジア認識の特徴と傾向を整理・考察したい<sup>2</sup>。

## 2 校友会雑誌の史料的位置づけと範囲

本稿では、以下、齊藤利彦<sup>3</sup>らの校友会雑誌研究、とりわけ齊藤利彦、市山雅美「旧制中学校における校友会雑誌の研究」（以下齊藤・市山（2008））をふまえ、古谷哲夫<sup>4</sup>、青木保<sup>5</sup>、並木頼寿<sup>6</sup>らのアジア認識研究の問題関心、植民地教育史研究<sup>7</sup>、日本植民地教育研究会<sup>8</sup>、植民地教育の研究<sup>9</sup>を念頭におき、齊藤らによる研究の成果と本研究の連続性及び独自性を確認した上で、本研究における研究手法を検討する。

中等学校における校友会雑誌を研究する意義や目的、方法、課題を明らかにした齊藤・市山（2008）は、旧制中学

\*学校教育学系

校研究においては、制度史研究や政策史研究の進展に比べ、「中学校内部での日常的な教育活動の実態や、具体的な学校生活、そしてその中で生きた生徒たち、すなわち『学ぶ者』の側の様々な姿や教育体験を解明した研究」が、「量的にも質的にもいまだ十分なものはなっていない」と述べ、このような学ぶ者の側の姿をとらえるには、中央官庁、行政機関の文書だけでなく、「学校現場の日常の営みに密着した史料」、生徒たち「自身の手によって綴」られた史料を取り上げる必要性を指摘した。齊藤は、校友会雑誌こそは、「生徒たちが自ら作り上げたという側面」、「間接的ながらそこから彼等の日常の行動や意識等をうかがう」ことのできる、「当時の学校の日常的な教育実態および生徒たちの行動と意識状況を具体的に考察していく」貴重な資料であり、①「学ぶ者」の側の意識や状況を反映し、②長期的に刊行され「時代状況の中での様々な内容の変化が分析」でき、③多くの中高等学校で刊行されていて学校間の比較が可能な史料であると述べている<sup>10</sup>。

ただ史料的には、校友会雑誌の存在自体が、いまだ完全に確認されない状況にあるため、齊藤らは、旧制中学校を母体とする高等学校にアンケート調査を行い、創刊年、発行期間、雑誌名称、頁数、費用、発行頻度、記念号・特別号の内容、雑誌の構成、執筆者等の情報をもとに書誌的分析を行っている<sup>11</sup>。このように日本国内では戦前期に設置された中等諸学校が戦後の新制高等学校へと継承されたケースも少なくないため、一定の組織的な収集作業が可能であるが、本研究が対象とする地域の中高等学校は、図書館や大学にまとまった形で所蔵が確認される台湾、積極的に収集保存している玉川大学教育博物館、学習院大学文学部、日本の国立国会図書館、一部の公共図書館などを除いては、私立学校を含む学校ごとに所在を確認する作業や、戦前期及び戦後日本に帰国した関係者の個人所蔵等に依拠せざるを得ない状況にある。このため、現在内容を確認できるものは、中等学校のうち、中学校、高等女学校、師範学校に限っても、きわめて限定的である。

表1は、地域ごとの、戦前期に設置された中学校、高等女学校、師範学校一覧である。紙幅の関係で表中の校名につき「学校」を省略し、高等女学校を「高女」と略している。学校名は『学校一覧』等<sup>12</sup>をもとに作成したが、実業系諸学校、高等普通学校からの変更、私立から公立への変更等を経て、中学校、高等女学校、師範学校となった学校名を含めて記載している。私)は私立学校、(普)は朝鮮総督府においては1938年改正(第三次)朝鮮教育令以前に高等普通学校ないしは女子高等普通学校と称したものを指し、校名自体を変更した学校は旧学校名を( )内に記した。ただし複数回にわたる名称変更は省略した。

表1 台湾総督府、朝鮮総督府、関東庁、樺太庁、南洋庁、満州国における中学校、高等女学校、師範学校一覧

	中学校	高等女学校	師範
台湾総督府	台北第一中 <sup>13</sup> 、台北第二中、台北第三中 <sup>14</sup> 、台北第四中、基隆中 <sup>15</sup> 、嘉義中 <sup>16</sup> 、花蓮港中 <sup>17</sup> 、彰化中、宜蘭中、台中第一中(普)、台中第二中 <sup>18</sup> 、新竹中、台南第一中 <sup>19</sup> 、台南第二中、高雄第一中、高雄第二中、屏東中、台東中、城東公立中、城南中(普)、私)私立台北中 <sup>20</sup> 、私)台北国民中、私)淡水中、私)台湾佛教中、私)台中中、私)花蓮港中、私)長栄中(普) <sup>21</sup> 。	台北第一高女 <sup>22</sup> 、台北第二高女 <sup>23</sup> 、台北第三高女(普) <sup>24</sup> 、台北第四高女、基隆高女 <sup>25</sup> 、嘉義高女、彰化高女(普)、宜蘭高女、蘭陽高女、台中第一高女、台中第二高女、新竹高女、台南第一高女、台南第二高女(普) <sup>26</sup> 、高雄第一高女、高雄第二高女、虎尾高女、屏東高女、花蓮港高女 <sup>27</sup> 、高雄淑徳高女 <sup>28</sup> 、台東高女、馬公高女、私)長栄高女、私)淡水高女。	台北第一師範 <sup>29</sup> 、台北第二師範 <sup>30</sup> 、台中師範 <sup>31</sup> 、台南師範 <sup>32</sup> 、新竹師範、屏東師範。
朝鮮総督府	京城公立中 <sup>33</sup> 、龍山公立中、景福公立中(京城第二高等普通) <sup>34</sup> 、京城旭丘公立中、京城城東公立中、京畿公立中(京城第一高等普通) <sup>35</sup> 、仁川公立中、開城公立中、忠州公立中、清州第一公立中(普)、清州第二公立中、大田公立中 <sup>36</sup> 、群山公立中 <sup>37</sup> 、公州公立中(普)、全州南公立中、全州北公立中(普)、光州東公立中、光州西公立中(光州公立高等普通) <sup>38</sup> 、大邱公立中 <sup>39</sup> 、慶北公立中(大邱公立高等普通) <sup>40</sup> 、釜山第一公立中、釜山第二公立中、東萊公立中(私)東萊高等普通)、順天公立中、馬山公立中、晋州公立中(普)、木浦公立中、慶州公立中、金泉公立中(私)金泉高等普通)、春川公立中(普)、平壤第一公立中 <sup>41</sup> 、平壤第二公立中(平壤公立高等普通)、平壤第三公立中、安岳公立中、海州東公立中(海州公立高等普通) <sup>42</sup> 、海州西公立中、元山公立中、浦項公立中、金剛公立中、新義州公立中、新義州東公立中(新義州公立高等普通)、洪城公立中、鉄原公立中、統営公立中、	京城第一公立高女、京城第二公立高女、京城第三公立高女、京城舞鶴公立高女、京畿公立高女(京城女子高等普通) <sup>44</sup> 、仁川公立高女、水原公立高女、忠州公立高女、清州第一公立高女、清州第二公立高女、開城公立高女、大田公立高女(普)、群山公立高女、鳥致院公立高女、全州公立高女、全北公立高女(全州公立女子高等普通)、光州大和公立高女、光州旭公立高女(光州公立女子高等普通)、井邑公立高女、金堤公立高女、大邱公立高女、慶北公立高女(大邱公立女子高等普通)、釜山公立高女 <sup>45</sup> 、釜山港公立高女(釜山公立女子高等普通)、東萊高女(私)東萊日新女学校) <sup>46</sup> 、馬山公立高女、木浦公立高女、晋州公立高女、麗水公立高女、安東公立高女、春川公立高女、江陵公立高女、平壤公立高女、平壤西門公立高女(平壤公立女子高等普通)、安岳公立高女、海州旭町公立高女、海州幸町公立高女(海州公立女子高等普通)、元山公立高女、元山港公立高女(楼氏女子高等普通)浦項公立高女、新義州公立高女、新義州南公立高女(普)、大東公立高女、江景公立高女、鉄原公立高女、兼二浦公立高女、沙里院公立高女、鎮海公立高女、鎮南浦公立高女、	京城師範 <sup>47</sup> 、京城女子師範 <sup>48</sup> 、大邱師範(慶尚北道公立師範) <sup>49</sup> 、京畿道公立師範、忠清南道公立師範、忠清北道公立師範、全羅南道公立師範、清州師範、公州女子師範、全州師範、光州師範、晋州師範、慶尚南道公立師範、春川師範、江原道公立師範、平壤師範 <sup>50</sup> 、元山女子師範、新義州師範、咸興師範、黄海道公立師範、咸鏡南道公立師範、咸鏡北道公立師範、平安北道公立

	江西公立中, 鎮南浦公立中, 江界公立中, 咸興公立中, 咸南公立中, 永生中(普), 北青公立中, 鏡城公立中(普), 城津公立中, 清津公立中, 羅津公立中, 羅南公立中, 安州公立中, 私)徽文中(普), 私)松都中(普), 私)中央中(普), 私)城南中, 私)培材中(普), 私)普成中(普), 私)養正中(普), 私)漁郎中, 私)宣川中, 私)平安中, 私)順安中, 私)五山中(普), 私)景昌中(光成高等普通), 私)明新中, 私)文泰中, 私)大倫中, 私)高敏中(普) <sup>43</sup> , 私)咸興日出中。	金泉公立高女, 順天公立高女, 裡里公立高女, 統營公立高女, 咸興公立高女, 咸南公立高女, 城津公立高女, 清津公立高女, 羅津公立高女, 羅南公立高女, 東羅南公立高女, 順川公立高女, 鎮南浦公立高女, 定州公立高女, 永生高女(普), 興南公立高女, 会寧公立高女, 私)淑明高女(普), 私)進明高女(普), 私)大邱進明高女(普), 私)梨花高女(普), 私)仁川昭和高女, 私)同徳高女(普), 私)培花高女(普), 私)南山高女, 私)開城明徳高女, 私)開城明徳高女, 私)咸興日出高女, 私)華頂女。	師範, 大田師範, 海州師範, 清津師範。
関東庁	旅順第一中, 旅順第二中(旅順高等公), 大連第一中 <sup>51</sup> , 大連第二中 <sup>52</sup> , 大連第三中, (市)大連中。	大連神明高女, 大連芙蓉高女, 私)大連羽衣高女, 私)大連昭和高女, 私)大連弥生高女, 私)大連高女 <sup>53</sup> 。	旅順師範, 旅順高女・旅順女子師範 <sup>54</sup> 。
樺太庁	豊原中 <sup>55</sup> , 大泊中, 落合中, 真岡中, 恵須取中, 知取中, 敷香中, 私)樺太教育会附属豊原夜間中等。	豊原高女, 大泊高女, 泊居高女, 落合高女, 真岡高女, 知取高女, 敷香高女。	樺太庁師範。
南洋庁	パラオ中。	パラオ高女, サイパン高女(私)。	
「満洲国」	新京第一中 <sup>56</sup> , 新京第二中, 奉天第一中 <sup>57</sup> , 奉天第二中 <sup>58</sup> , 鞍山中, 安東中, 吉林中, 四平中, 星輝中, 牡丹江中, 營口中, 間島中, 佳木斯中, 錦州中, 齊々哈爾中, 通化中, 阜新中, 撫順中, 鞍安中, 哈爾濱中, 本溪湖中。	新京敷島高女 <sup>59</sup> , 新京弥生高女, 新京錦ヶ丘高女, 新京向陽高女, 奉天浪速高女, 奉天朝日高女 <sup>60</sup> , 奉天長沼高女, 奉天大和高女, 鞍山常磐高女, 鞍山旭ヶ岡高女, 安東京橋高女, 安東浪花橋高女, 吉林高女, 四平高女, 牡丹江高女, 營口高女, 間島高女, 遼陽高女, 北安高女, 佳木斯高女, 錦州高女, 齊々哈爾高女, 通化高女, 阜新高女, 撫順東七条高女, 撫順十条高女, 本溪湖高女, 海拉爾高女, 東安高女, 哈爾濱富士高女, 哈爾濱扶桑高女。	新京師範, 牡丹江師範。

表1の学校名に付した下線は、校友会雑誌を収集もしくは直接確認したものを指している（注に所蔵先を記載）。収集・確認できている史料は、1926年から1944年の期間に発行されたものが中心であり、時期を通して確認の可能な校友会雑誌としては、台北第一中学校、台南師範学校、京城中学校、大連第二中学校が、また同時期の横断的比較の可能なものとしては、盧溝橋事件から真珠湾攻撃に至る時期の台北第一師範学校、台北第二師範学校、台中第二中学校、嘉儀中学校、台北第一高等女学校、群山中学校、東萊高等女学校、新京中学校、奉天朝日高等女学校、豊原中学校の校友会雑誌、真珠湾攻撃以降では、台北第一師範学校、北第二師範学校、台南師範学校、台北第一中学校、台北第三中学校、私立台北中学校、台南第一中学校、嘉儀中学校、長栄中学校、台北第三高等女学校、基隆高等女学校、旅順高等女学校・旅順女子師範学校、奉天第二中学校の校友会雑誌をあげることができる。

### 3 校友会雑誌の構成及び検討対象

齊藤・市山(2008)は、校友会雑誌の誌面構成を論説、散文、韻文、雑録、雑報・校報、会報・部報に整理し、散文は「文苑」に、韻文は「詩藻」に掲載されていることなど構成と内容の共通性を整理しながら、「文苑」にも「文芸の性格が強いとはいえない例」、「時代背景の影響」を受けた記述がみられ、「雑録」「雑俎」にも「生徒の多様な関心」「他の生徒への呼びかけ」がみられるなど、各欄の区分のみに依拠して内容を区分するには無理があると指摘している<sup>61</sup>。

表2は、誌面構成を比較した齊藤・市山(2008)の表<sup>62</sup>のうち、唯一昭和期が例示された福島県立田村中学校(1928年)に、本研究として、都市部にあたる大阪府立北野中学校の同年の誌面構成を加えたうえで、同年に発行された台北第一師範学校、台北第一中学校、京城中学校、大連第二中学校の誌面構成と比較したものである。齊藤らが指摘するように、本研究が対象とする地域においても、「文苑」のように共通する名称がみえ、生徒による記述は、散文、韻文、紀行(修学旅行を含む)、部報などの欄に掲載されていることがわかる。一方で、台北第一師範学校、台北第一中学校の校友会誌には、雑誌巻頭部分に、勅語などを通して日本政府や総督府の、学校長の訓辞などを通して学校の立場や見解が掲載されている。そこで表3に台北第一中学校の校友会雑誌『麗正』の主要題目を、表4に1927年から1944年までの『麗正』の誌面構成を整理した。

表2, 表3, 表4から、生徒の意識や発言が表明される散文は、誌面構成では論考欄(想華)や散文・韻文欄(詞

藻)に混在していること、本研究が対象とする地域は、斉藤らの指摘以上に、勅語、日本政府や総督府による告諭、軍関係者の講話、校長や教師の訓話的論説など、学校側の統制を伺わせる掲載記事が顕著にみられること、対外戦争に関わる時局の推移、とりわけ1942年頃から学校と戦争との直接的関係(出身者や教師、配属将校らの出征・応召・戦死)を伺わせる記述が顕在化していること等を確認することができる。

表2 校友会雑誌の誌面構成

田村中学校	校友会会報1	1928年	口絵、文苑、詞林、新詩、和歌、俳句、創作、消息、部報、彙報
北野中学校	六稜68	1928年	文苑、部報、卒業生より
台北第一師範学校	校友会誌43	1928年	校長訓話、論説、文苑、長詩、和歌、俳句、童謡、旅行記、彙報
台北第一中学校	麗正36	1928年	勅語、口絵、想華、詞藻、紀行、通信(部報)、彙報
京城中学校	校友会誌19	1928年	口絵、論説、文苑、創作、校報(旅行、通信、部報)、送辭
大連第二中学校	晨光3	1928年	校歌、送別、口絵、文苑、学芸、旅行記、通信欄彙報(部報)

表3 台北第一中学校『麗正』第36号の主要題目

勅語等	3	教育勅語、壽詞(内閣総理大臣)、大典雅頌(麗正會會長)	頁
口絵	9	大典奉祝式、校舍、職員、第五學年生徒、第四學年生徒、第三學年生徒、第二學年生徒、第一學年生徒、昭和十二年三職員及卒業生。	
想華	9	我が神人歸一の信仰に就いて(會長)、御大禮解説(特別會員)、御即位に関する諸項の國法的意義(特別會員)、海軍記念日における講演(海軍中佐)、邦人の南方發展について(講演記録)、剣道十訓五戒(特別會員)、フオイエルバツハの定理に就て(特別會員)、世界に於ける動力及燃料(特別會員)、我國學校教育の目的(五年)。	1
詞藻	22	盛世の御大典を祝ぎ奉りて(和歌)(會長、特別會員)、俳句、奉賀即位大典、如是觀(特別會員)、蕃地旅行中によめる(特別會員)、秋風の歌(特別會員)、發火演習見学雑感(特別會員)、The Sumn is Up, Everybody is Eaboured(特別會員)、御大典と國民(五年)、御大典と我等昭和青年の覚悟(五年)、即位の大禮(五年)、御大典を祝し奉る(五年)、吾々の御大典拝賀式(五年)、御大典(四年)、御大典について(四年)、御大典について(四年)、涼味(四年)、夜間演習に於ける飯盒隊として(三年)、臺北橋争奪戦の見学(三年)、夕暮れ(三年)、郊外の秋(三年)、御大典を迎へて(二年)、御大典を迎へて(二年)、御大典を迎へて(二年)、御大典を迎へて(二年)、魚釣(二年)、魚釣(二年)、御大禮の第一日(一年)、ララー山の朝(一年)、初試合(一年)、静かな夕暮(一年)、淡水港(四年)、短歌(五年)、短歌(四年)。	124
紀行	2	慶州紀行(特別會員)、南部修學旅行記。	159
通信	2	山東派遣軍より(會友)、台湾高商の窓より(會友)。	181
彙報	18	紀要、我校の大禮記念事業、職員、恩師送迎、文芸部記事、剣道部記事、柔道部記事、庭球部記事、野球部記事、水泳部記事、寫眞部記事、運動會記事、一中對工業對抗野外教練演習従軍記、秋季演習従軍記、昭和三年度麗正會役員、昭和二年度収支決算書、昭和三年度支出豫算、編輯後記。	184 222

表4 台北第一中学校校友会雑誌『麗正』の誌面構成一覧(数字は題目数)

号数	発行年月	勅語等	口絵	想華	国の華	詞藻	詩歌	紀行	彙報・部報	他
麗正34	1927年3月	2	4	3		26		3	13	
麗正35	1927年12月		5	4		36		6	18	
麗正36	1928年12月	3	9	9		50		2	18	
麗正37	1930年2月		5	4		26	7	5	13	
麗正38	1931年2月		7	3		10	21	1	16	
麗正42	1935年3月		12	7		16	26		17	
麗正43	1936年3月		13	4		22	16		22	
麗正44	1937年3月		8	3		35	7		20	
麗正45	1938年3月		1	3	3		12		17	
麗正47	1940年1月					5	3			
麗正48	1941年1月	1	4	2		20	19			
麗正49	1942年6月	1	2(先生御遺影)	論説2		文藻15	5		7	卒業所感
麗正50	1943年3月		2	論説1		文藻15	銃後吟詠		6	卒業所感、留學所感
麗正51	1944年3月		1			10	銃後吟詠		6	卒業所感、訓練日誌

#### 4 アジア認識に関わる記述の抽出、記述整理の手法、時期区分

アジア認識の語を冠した研究書、古谷哲夫『近代日本のアジア認識』(1996)<sup>63</sup>には、アジア認識の語を含む6論文、アジア認識と同様の意が用いられた3論文が収められている。また、青木保「近代日本のアジア認識 文化の不在」(1999)<sup>64</sup>、並木頼寿『日本のアジア認識』(2008)<sup>65</sup>なども、アジア認識を冠した論文、書籍である。このうち、「国民のアジア認識の基底がその子どもの時代に形成されたであろうと仮定すれば、学校教育を通してつくられる子供たちのアジア認識の重要性もまた指摘されなければならない」(「教育雑誌にみるアジア認識の展開」<sup>66</sup>)といった研究姿勢は本研究も共有するものであるし、『横浜毎日新聞』(「日清戦前の中国・朝鮮認識の形成と外交論」<sup>67</sup>)、『東洋時報』(「近代日本の台湾認識」<sup>68</sup>)、『教育持論』(「教育雑誌にみるアジア認識の展開」)などを史料として取り扱う点では本研究の研究対象とも重なる。しかし『近代日本のアジア認識』としては、アジア認識の語を一律かつ総括的に定義しているわけではなく、近代日本及び日本人がアジア諸国及びその人々との接触を通して生じた認識やイメージの傾向を論じることで、アジア認識の意としている<sup>69</sup>。たとえば、「アジア認識の基軸」は「アジア認識という名目で累積されてきた言説の歴史の層を掘り返し」、「アジアについて何が語られ、何をもちてアジアであるとみなされたかを見極める」<sup>70</sup>ことを重視し、「語られ」たアジアのイメージを再構成することでアジア認識を説明しているし、青木保「近代日本のアジア認識 文化の不在」(1999)は、言説にみる「アジアの位置づけ」<sup>71</sup>を試み、並木頼寿『日本のアジア認識』(2008年)もアジア観の語でアジア認識を説明している。いずれも、アジア、朝鮮、台湾についての、アジア主義やアジアの盟主意識を含むイメージ<sup>72</sup>、アジア観等の語と同義に使用している。

本研究においても、アジア認識を厳密に定義することはせず、題目ごとの記述から、①日本に関するイメージと評価、②アジア地域の諸国、人々に対するイメージと評価、③欧米、ロシア等の諸国に対するイメージと評価に言及した記述をまとまりのある一文ごとに抽出し、ここから、校友会雑誌に表出されたアジア認識の特色、あるいは傾向を整理することにした。また、前掲の諸論考の多くは研究主題とする言説のイメージやフレームをあらかじめ設定し、対象とする史料から任意かつ演繹的に言説を選び出し、アジア認識、あるいは日本人のアジアイメージを整理しているが、本研究では、中等学校生徒による散文等のタイトルや内容ごとに、アジア認識に言及するも関連語句を抽出し、校友会雑誌各号に描き出され、表出されたアジア認識の特色、あるいは傾向を再構成することとした。

なお、本研究が対象とする地域については、柳条湖事件(1931年9月)、「満洲国」建国(1932年3月)、国家総動員法(1933年4月)、盧溝橋事件(1937年7月)、東亜新秩序声明(1938年11月)、真珠湾攻撃(1941年12月)、ミッドウェー海戦(1942年6月)、敗戦(1945年8月)などの政治史的整理、地域ごとに影響を与えた施策、たとえば第二次朝鮮教育令及び台湾教育令(1922年2月)、台湾の国家総動員法(1938年5月)、第三次朝鮮教育令(1938年3月)、第三次台湾教育令(1941年3月)、第四次朝鮮教育令(1943年3月)などの教育施策による区分のように、複数の時期区分を適用することが必要となるため、このため、本研究では、共通する時期区分を一律には適用しない。

#### 5 構成面を中心とした横断的比較の可能性(1938年の校友会雑誌)

本節では、校友会雑誌の同年における学校や学校種、地域ごとの誌面構成及び記述内容に関する比較の可能性を検討したい。対象とする地域に直接関係する歴史的画期の一つである盧溝橋事件、すなわち日中全面戦争への最初の反応が記載された1938年発行の校友会雑誌のうち、日本人生徒の記事が大多数である台北第一師範学校、台北第一高等女学校、台湾出身の生徒が一定数を占める嘉義中学校、日本人生徒の記事が大多数である京城公立中学校、朝鮮半島出身者の記事が大多数である東萊日新女学校(東萊高等女学校)、日本人の記事が大多数である大連第二中学校、旅順高等女学校・旅順女子師範学校、豊原中学校、新京第一中学校と奉天朝日高女学校について、以下、表5-1から10に、構成の概要と題目を整理する。なお誌面の都合から研究欄、韻文・戯曲・創作欄などは題目名を省略している。また、東萊日新女学校に付している(呑)はハングルで記述された題目・本文であることを指す。

表5-1 嘉義中學校『旭陵』第9号(1938年5月)の紙面構成と題目

巻頭	内閣告諭號外(内閣総理大臣)、嘉義中學校生心得大綱、第七十二回帝國議會開院式勅語、我が國体を闡明し『天皇機關説』を排撃す(會長)。	
口繪	昭和十二年度第十回卒業記念、教員写真、嘉中裸体操、新農場全景、六千米武装駆足	
	野球全國制覇目ざして(特別會員)、全國大會並神宮大會出場記念座談會(野球部)、球場偶感。	14
随想	龍之介の死(特別會員)、蛆のたわごと(特別會員)	25
第一線より	教諭、卒業生諸氏	34
愛國の泉	(省略)	44
慰問袋	(省略)	57
研究	(省略)	108
作品集	随想集:内田君の葉書(五年)、年頭所感(五年)、自然随順(五年)、昭和青年の覺悟(五年)、感激の一瞬(四年)、レンプの木蔭(四年)、恐怖から恐怖へ(四年)、狂人(四年)、代数の試験(四年)、限度(四年)、黄昏に思ふ(四年)、ハルビン(四年)、空襲警報(四年)、水泳の試合(四年)、雨の後(三年)、キヤンプの一日(三年)、夏の雨(三年)、長雨(三年)、空襲(三年)、夏の夜(三年)、嘉中精神とは何ぞや(三年)、小鳥(三年)、カナリヤの死(二年)、冬の夜の思出(二年)、困ったこと(二年)、カタツムリ(二年)、キヤッチ・ボール(二年)、抽籤場(二年)、最後の五分間(二年)、防空展覽會(二年)、港の灯(二年)、釣(二年)、我が國旗(一年)、新しい思ひ(一年)、心は戦場に飛ぶ(一年)、無念!五千米(一年)、日曜の朝(一年)、弟(一年)、柔道(一年)、歸省(一年)、教練査閲(一年)、海軍(一年)。	129
旅愁	内鮮滿旅行記(基隆、下関、釜山、京城、平壤、撫順、奉天、旅順、大連、ハルビン、新京、基隆、羅津、清津、新潟、東京、日光、東京、横須賀、鎌倉、伊勢、奈良、京都、大阪、神戸、門司、基隆、嘉義)、第十回新高山登山記。	187
英靈を憶ふ	守君は生きてゐる、噫!税所克己君。	218
學習のコツを語る	教諭。	225
部報	柔道部、劍道部、講演部、美術部、庭球部、野球部、園藝部、圖書部、寫眞部、水泳部、陸上競技部。	244
	校誌抄、校友會委員表、あとがき。	274
		282

表5-2 台北第一高等女學校『校友會誌』第26号(1938年3月)の構成と主要題目

巻頭	巻頭言(學校長)、資源の愛護 廢品の利用(二)、南京陥落。	
口繪	會長、前會長、第三十一回卒業式、大溪遠足、弓道部、臨海學校、體育演習會、内地修學旅行、新高山登山、洗濯奉仕、甘藷堀り、籠球部、ばんざい、水泳部、庭球部、排球部。	
旅行記	内地修學旅行(基隆、門司、博多、厳島、熱海、鎌倉、東京、日光、伊勢、樞原神宮、吉野神宮、奈良、京都、大阪、神戸、門司、下関、基隆) 新高山登山。	12
本校行事	學校略曆。	19
彙報	諸先生送迎、豫餞會、卒業式、追弔會、乃木祭、昭和十一年體力検査成績、臨海學校日誌抄、自強會記録、第十二回體育演習會。	18
文苑・和歌・俳句	(省略)	32
各部報	圖書部、園藝部、美術部、音樂部、談話部、購買部決算報告、庭球部、籠球部、排球部、陸上競技部、弓道部、水泳部、徒歩部、衛生部、校友會役員部表、昭和十一年度校友會決算書、昭和十二年度校友會豫算書。	45

表5-3 台北第一師範學校『麗育學報 國民精神總動員特別號』第25号(1938年1月)の紙面構成と主要題目

巻頭	第七十二回帝國議會開院式に當り賜はりたる勅語、告諭(内閣総理大臣)、諭告(臺灣總督)、臺灣軍司令官の警告(臺灣軍司令官)、精神動員の強調に當りて(會長)、聖徳無邊 皇室の御慈悲(編輯部)、大日本(公男二年)	
口繪	陸軍墓地ニ於ケル献木式、體育演習會、陸軍墓地清掃奉仕、濱崎先生ノ出征ヲ送ル	
説苑	去來小感(特別會員)、戦地に濱崎小池両先生を送つて(小演)、戦地に渡邊次男さんをおくつて(小普四年)、校風樹立(公男二年)、目白學習院修養団講習會に出席して(公男二年) その實況(公男二年)、感想(公男二年)、三峯山修養講習會に出席して(小演)、軍事講習所感(公男二年)、軍事講習所感(公男二年)、我等國民の使命(公男一年)、大和民族の血(小普二年)、叔父の戦傷(公男一年)、支那事變と皇民化運動(小普五年)、支那事變雜感(小普五年)、支那事變に際して(小普四年)、國民精神總動員の意義と陸軍墓地清掃作業実施後感(小普五年)、國民精神強調週聞(小普四年)、國民精神總動員強調二関スル當選標語、芝山巖奉仕作業に當りて(小普四年)、全校美化作業(小普四年)、眞の實行家(小普五年)、古代オリムピックゲームスに於ける五種競技(pentathlon)について(小演)、弓矢の沿革と體育的効果(小普四年)。	2

文苑	父（公男二年）、古い一つの思ひ出（公男二年）、或日の思ひ出（公男二年）、學寮生活（公男二年）、返事（小演）、休暇中の或日に思ふ（公男一年）、汝よ聴け（公男一年）、砂遊び（小普四年）、ラヂオ体操（小普四年）、内地へ歸る（小普三年）、亡き父の姿（小普二年）、 <u>我々の覺悟</u> （小普一年）、僕の好きな動物（小普一年）、工夫の力（小普一年）。	50
歌壇・詩苑	（省略）	74
各部状況	北一師同窓會より優勝盃の寄贈を受く、州下中等學校新人陸上競技大會奮戦記、州下中等學校水上競技大會記、臺北州下第一回籠球選手権大會記、海老澤先生へ（弓道部）、全臺灣中等學校水泳大會、第十二回校内水泳大會記録、健功神社奉納士會記録、寫眞展記事（小演）、體育演習會記（小演）、林君の死を悼む（公男二年）	82
卒業を控えて校友に	（公男二年）、（小演）、（會誌部委員）	102

表5-4 京城公立中学校『校友會誌』第29号（1938年3月）の構成と主要題目

巻頭	皇國臣民ノ誓詞、巻頭言（會長）	
口繪	第二十六回卒業生、支那事變本校卒業生戦死者、支那事變本校職員應召出征者、劍道各組對抗優勝刀争奪戦優勝組、柔道各組對抗優勝試合優勝組、本校スケート場、本校音楽隊。	
玉龍	漢文（先生）、漢詩（先生）、銃後漫談（先生）、外来語雑談（先生）、組主任對抗縦走實況放送（先生）、淵臺峰登山記（先生）、二つの英靈に捧ぐ（先生）。	4
論説	仰ぎ見る目（五年）、日本精神を論ず（五年）、支那を論ず（五年）、支那を論ず（五年）、支那を論ず（五年）、日本文化に就て（五年）、現代人（五年）、勝敗（五年）、勝敗（五年）、京中の生徒に（五年）。	42
詞藻	偶感（五年）、城壁回顧（五年）、死の斷片（五年）、余が學習の目的（五年）、青春（五年）、我が前途に對する希望（五年）、傳統（五年）、余が學習の目的（五年）、舊師を懐ふ（五年）、青春（五年）、窓（五年）、我が前途に對する希望（五年）、停車場（五年）、我が前途に對する希望（五年）、忘れ得ぬ人（五年）、大自然の力（五年）、支那事變所感（五年）、私を育ててくれた環境（五年）、心（五年）、私を育ててくれた環境（五年）、懷顧（四年）、故郷（四年）、秋色（四年）、秋色（四年）、克己（四年）、嵐の夜（四年）、我等が學び舎（四年）、人生樂觀（四年）、登山（四年）、我が校庭（四年）、病氣（四年）、 <u>皇軍を讃す</u> （四年）、太平洋と日本（四年）、 <u>歡送</u> （四年）、一家行樂（四年）、故郷（四年）、故郷（四年）、朝の裏山（四年）、車窓より『南鮮の旅にて』（四年）、日本精神（四年）、寂秋（三年）、朝の喜び（三年）、山（三年）、思ひ出（三年）、勘違ひ（三年）、ある町の一角（三年）、天竺寺の朝（三年）、骨肉の愛（三年）、つくし（三年）、電車の中（三年）、鐵棒（三年）、岩（三年）、講演を聴いて（三年）、桑名（三年）、夜更けの山寺（三年）、山（三年）、美しい思ひ出（三年）、山の秋（三年）、よろこび（三年）、正義の劔（三年）、海邊にて（三年）、無題（三年）、防空演習（三年）、後悔（三年）、後悔（二年）、蛾（二年）、 <u>戦時下の夜</u> （二年）、 <u>叔父さんの出征を見送る</u> （二年）、 <u>兄の出征</u> （二年）、 <u>戦死</u> （二年）、 <u>勇猛・尾崎特務兵</u> （二年）、 <u>水泳ぎ</u> （二年）、 <u>長野先生の出征を見送る</u> （二年）、 <u>二双島に行く</u> （二年）、 <u>京中仁王山一周競走</u> （二年）、俳句（二年）、江の島（二年）、極東の空を仰いで（二年）、家庭笑話（二年）、誤解（二年）、電車の中（二年）、蝶（二年）、ほとゝぎす（二年）、散髪（二年）、思ひ出（二年）、 <u>叔父の戦死</u> （二年）、 <u>故作江伍長家を訪れて</u> （二年）、 <u>雉狩り</u> （二年）、 <u>夜明けの港</u> （群山港の南）（二年）、話題（二年）、第二回目の手術（二年）、蠅（二年）、須崎君の靈よ（二年）、故郷を偲ぶ（二年）、母（二年）、ドック（二年）、助監督の王さん（二年）、北漢山夜行軍（二年）、夏休みの一日（一年）、雀（一年）、K先生の思ひ出（一年）、或る日（一年）、夜（一年）、夏休みの一日（一年）、夏休みの一日（一年）、口笛（一年）、朝顔（一年）、窓から見た夜（一年）、從兄の戦死（一年）、柿（一年）、寄宿舎へ（一年）、朴さん（一年）、感激（一年）、蜘蛛（一年）、初冬（一年）、試験の夜（一年）、晩秋（一年）、雞（一年）、魚釣り（一年）、戦利品展覧會（一年）、我が生ひ立ち（一年）、昭和十二年を回顧して（一年）、或る日（一年）、冬の朝（一年）。	74
詩壇、創作	（省略）	178
紀行	内地修學旅行記（京城、釜山、下関、京都、伊勢、名古屋、東京、日光、鎌倉、箱根、奈良、大阪、岡山、宮島、下関、釜山、京城）	204
部報	庭球部、競技部、ラグビー部、水泳部、射撃部、音楽部、園藝部、柔道部、圖書部、野球部、相撲部、理科部、辯論部、山岳部、劍道部。	241
彙報	本校沿革、職員録、職員異動、訃音、昭和十二年度學級編成、昭和十二年度校友會役員、行事抄、昭和十一年度校友會決算報告書、編輯餘録。	303

表5-5 東萊日新女学校『日新』第10号（1938年7月）の構成と主要題目

巻頭	聖句（ <u>㊦</u> ）、はじめに（ <u>㊦</u> ）。 皇國臣民ノ誓詞、愛國日時局講話、 <u>支那事變に就て</u> 、 <u>事變日誌抄</u> 。	
寫眞	クリスマス祝賀會（ <u>㊦</u> ）、京都にて（四年生修學旅行團）（ <u>㊦</u> ）、第十二回卒業生一同、日新を育ててこられた先生方、『日新』の姿（目次集）。	

講演	信仰の感激性 ( ㉔ ), 路可福音十五章十八-二十一節 ( ㉔ ), 禁酒問題について, 無題 ( ㉔ ), トウジャンへの手紙 ( ㉔ ),	19
學生作品	反響: 出征軍人の見送り ( 一 ), 支那事變について ( 三 ), 北支事變に就いて ( 三 ), 戦争の可否 ( 三 ), 親愛なる水兵さん ( 二 ), 水兵さんへ ( 二 ), 海軍の兵隊さんへ ( 三 ), 水兵さんへ ( 三 ), 海軍の兵隊さん ( 三 ), 海軍の兵隊さんへ ( 三 ), 海軍の兵士様 ( 四 )。 詩歌 ( 省略 )。 感想・小品: 入學の喜び ( 一 ), 夕立 ( 一 ), 初秋 ( 一 ), 私は鉛筆である ( 一 ), 遠足 ( 一 ), 遠足 ( 一 ), 夏の晩 ( 一 ), 晩春 ( 二 ), 舊師に近況を知らせる文 ( 二 ), 初夏の夕 ( 二 ), 畦道 ( 二 ), 或る日のこと ( 二 ), 初夏の夕 ( 二 ), 晩春の夜 ( 二 ), 落花 ( 二 ), 新年 ( 二 ), 新年を迎えて ( 二 ), 朝の庭 ( 二 ), キリギリス ( 二 ), 晩秋の月 ( 二 ), 私の妹 ( 二 ), 御母様へ ( 三 ), 御母様へ ( 三 ), 朝湯 ( 四 ), 悲しい運命 ( 四 ), 祖母の臨終 ( 四 ), 休みを終へて ( 四 ), 遠足 ( 四 ), 梵魚寺 ( 四 ), 初夏 ( 四 ) ( ㉔ ), 夏休みを迎えて親友たちが戻る ( 一 ) ( ㉔ ), 新年 ( 二 ) ( ㉔ ), 雨 ( 二 ) ( ㉔ ), 友情 ( 二 ), 校庭の春色 ( 三 ) ( ㉔ ), 初夏 ( 三 )。	40
紀行	奈良まで ( ㉔ ), 嵐山を訪れて ( ㉔ ), 瀬戸の一夜 ( ㉔ ), 別府を訪ねて ( ㉔ ), 京都の一日, 別府にて。	73
回顧	日新の足跡 ( ㉔ ), 梅牧師の横顔 ( ㉔ )	
消息	卒業生書信: 平壤から ( ㉔ ), 懐かしい友を尋ねて ( ㉔ ), 先生の前上書 ( ㉔ ), 愛する友人たちに送る雑感 ( ㉔ ), 樹徳寮便り, 母校消息 ( ㉔ ), 舊師消息 ( ㉔ ), 寄宿舎消息 ( ㉔ ), 姉たちの消息 ( ㉔ ), 師母のたちを探して ( ㉔ )。	87
報告	教務日誌抄, 第二回卒業式證書授與式, 送別の辞, 答辞, 校友會縁から ( ㉔ ), 卓球部, 陸上部, 籠球部, 排球部 ( ㉔ ), 祝賀会順序 ( ㉔ ), 餘興 ( ㉔ ), 故張庚淑嬢追悼式 ( ㉔ ) 昭和十二年度海水浴実施状況 ( ㉔ ), 昭和十二年度豫算書, 昭和十一年度會計収支決算報告, 學生基督青年會報告, 學父兄會報告。	120
雜録	東萊日新女學校一覽表, 卒業生状況。 編輯後記。	135 148

表5-6 大連第二中学校『晨光』第13号(1938年2月)の構成と主要題目

口繪	第十二回卒業生, 時局展覽会	
特別寄稿	行動に掲げし偉人の面影, 言語と國民性 ( 教諭 ), 山鹿素行と中朝事實 ( 教諭 ), 星までの距離はどうして求めるか ( 教諭 ), 統計上より見た本校生徒の健康状況 ( 教諭 ), 最新國文讀本 ( 卷三 ) に現はれたる博物學的教材に就いて ( 教諭 ), 夏季雜吟 ( 教諭 )。	1
星雲の光	一高より, 一高より, 二高と仙臺, 四高超然寮より, 龍南五高, 七高造士館に就いて, 海軍兵學校生活, 北大豫科から, 旅順から, 早大學園。	62
	若芽集 ( 省略 ), 時局日誌。	75
戰塵餘談	通州哀譚 ( 五年 ), 上海の空 ( 三年 ), 天津の銃聲 ( 三年 ), 天津 ( 三年 )。	107
時局感想	時局 ( 五年 ), 時局に対する覺悟 ( 四年 )。	107
詞藻 ( 短歌 俳句 )	( 省略 )	138
文苑	眞に人を動かすもの ( 四年 ), 雨 ( 三年 ), 散髪 ( 三年 ), 読書の感激 ( 三年 ), 趣味 ( 三年 ), 街頭風景 ( 二年 ), 秋立つ頃 ( 二年 ), 上向競走 ( 二年 ), 殊勲の本塁打 ( 二年 ), この一回こそは ( 二年 ), 舊師に贈る ( 一年 ), 夏休みの一日 ( 一年 ), 近況を報ずる文 ( 一年 ), 舊師に近況を報ず ( 一年 ), 試験 ( 一年 )。	142
	母國見學感想 ( 大連, 門司, 京都, 奈良, 大阪, 名古屋, 伊勢, 東京, 日光 ), 金福沿線見學記 ( 四年 )。	160
彙報	學校日誌抄, 卒業式辭, 校務・校友會分掌一覽, 組長・團別役員一覽, 武道部報, 運動各部報, 射撃部報, 辯論部報, 圖書部報, 愛鳩會報, 消費組合報, 校友會會計報告, 編輯後記。	184

表5-7 旅順高等女學校・旅順女子師範學校『學友會』第26号(1938年3月)の構成と主要題目

卷頭	校歌, 女師第一回卒業生を送る ( 會長 ), 戰時體制下の母國 ( 前學校長 )。	
口繪	卒業生記念撮影 ( 昭和十二年度 )。	
	會員消息, 同窓會便り, 銃後の歌, 短歌 ( 高女 ) ( 省略 )。	12
旅行記	母國の春 ( 安東, 京城, 釜山, 下関, 徳山, 巖島, 大阪, 奈良, 吉野, 伊勢, 鎌倉, 東京, 日光, 京都, 大阪, 別府, 阿蘇, 門司, 大連, 旅順 )。 北滿旅行記 ( 旅順, 公主嶺, 新京, 吉林, ハルピン, チチハル, 奉天, 撫順, 湯崗子, 大石橋, 旅順 )。	71
短歌	北滿旅情 ( 女子師範 )	103
學校行事 學友會記事	體育大會記, 音樂會記, 水泳大會記, 全滿女子體操選手権大會記, 実弾射撃記, 學芸會記, 全滿女子籠球選手権大會記, 氷上大會記。	106
	學友會寄附者芳名, 先生の送迎, リリー寮便り, お慶びと哀しみ	129
	卒業生名簿, 索引, 爾靈會名簿及會員名簿	135 201



表5-8 豊原中学校『校友会誌』第11号(1938年2月)の構成と主要題目

巻頭	御製御歌 神苑朝、題言(會長)	1
國民精神總動員記事	非常時局に於ける我等の覺悟(五年)、我が帝國の使命(五年)、非常時と我らの覺悟(五年)、我等の覺悟(五年)、銃後の使命(四年)、時局に處する我らの覺悟(四年)、日本の新理想(四年)、我が覺悟(三年)、國民の覺悟(三年)、非常時と樺太の産業開發(二年)、時局に處する我々の覺悟(一年)、國民精神總動員にあたって(一年)。	2
研究	(省略)	50
和歌・説苑・短歌	(省略)	43
紀行	青島の思ひ出(特別會員)	55
文集	愛國行進曲(一年)、試験(一年)、冬の月を見て(一年)、阿寒國立公園美幌峠藤周の眺望(一年)、野菜賣り(三年)、讀書(三年)、小品五題(三年)、或る日の出來事(三年)、出征軍人を送りて(三年)、誇の都(三年)、運動會雜感(三年)、白浦炭高坑内見學(三年)、女麗修學旅行記(三年)、三中學聯合演習參加記(四年)、人生とは何ぞや(五年)。	64
消息	伊藤先生より、渋谷先生より、江幡先生より、淺野先生より。	82
皇軍將士慰問文集	(省略)	88
長詩・短歌・俳句	(省略)	116
校報	教務日誌抄、舍務日誌抄、現職員、舊職員、第十回卒業式、追悼會の記、第十一回偉人賛迎會記録、第十一回義士會記録、銃後報國、愛國中學生獻金、慰問袋發送、御大典記念農園記。	122
昭和十二年度校友會部報	校友會役員一覽表、圖書部、樂藝部、講演部、寫眞部、展覽部、競技部、劍道部、柔道部、弓道部、庭球部、作業部、相撲部、排籠球部、野球部、會計部。	1
雜録	編輯後記、投稿規定。	52

表5-9 新京中学校『第一陣』第5号(1938年3月)の構成と主要題目

巻頭	學校精神、新京中學校校歌。	
口繪	南巖風景。	
	第一回卒業生を送る、卒業生諸君、「さよなら」、卒業生へ思ひ出、卒業生諸君へ、卒業生に贈る、卒業に當りて、歐米の印象、數學閑話。	2
論説	一九三八年を迎へて(四年生)、理想(三年生)、我が國の武士道(三年生)、在滿邦人(三年生)、江戸時代の敵討と切腹(二年生)、治外法權撤廢(二年生)、習慣(二年生)、明朗(一年生)。	69
研究	(省略)	87
紀行	欧米繪はがき便り(校長)、北支旅行記(四年生)、北滿旅行記(三年生)、吉林旅行記(一年生)、紀行(一年生)。	129
文苑	水(五年生)、地球儀(五年生)、人生(五年生)、おほろぎの骸(五年生)、英雄を想ふ(五年生)、秋の聲音と葉ずれ(三年生)、涙(三年生)、凡人(三年生)、僕と日記(二年生)、流れ行く木の片(二年生)、僕の趣味(二年生)、僕の受験記(五年生)、幼少のころの思ひ出のまゝ(三年生)、追憶の記(二年生)、金鶏鳥と雉(二年生)、神苑の朝(二年生)、蜜柑(二年生)、扁桃腺の手術(二年生)、正叔父さん(二年生)、長ズボン(二年生)、僕は一錢銅貨である(一年生)、神風機(一年生)、先生の恩(一年生)、母(一年生)、父を迎へに(一年生)、發表の日(一年生)、入學の喜(一年生)、我等のおまつり(一年生)、クロースカントリー(二年生)、全滿武道大会(三年生)、柳樹屯海濱生活の記(一年生)、教練査閱(一年生)、慰問袋(二年生)、ラグビー戦(三年生)、うさぎ狩(一年生)、Ourschool(四年生)、NationalDefebce(四年生)、第一學期の日誌より(七高)、通信(奉医)。	201
詞華	(省略)	281
彙報	學校日誌、部報、編輯後記。	315

表5-10 奉天朝日高等女學校『あけぼの』第3号(1938年3月)の構成と主要題目

巻頭	校訓、校歌解説、學校校歌、巻頭に題す(會長)。	
口繪	朝香初代會長、新人會員一同。	
特別寄稿	教養と語學(特別會員)、奉天附近産の珍魚「鐵魚」について(特別會員)、手藝と家庭生活(特別會員)、女性に希望する裁縫(特別會員)、現時勢と女學生の裁縫(特別會員)、出征(特別會員)。	1
文藻	發表の日(一年)、入學式の日(一年)、窓から(一年)、窓から(一年)、初秋(一年)、或る朝(一年)、宵のひととき(一年)、夜(一年)、感激の一夜(一年)、蟹釣り(一年)、慶子ちゃん(一年)、遠足(一年)、わらび(一年)、雨(一年)、下關から熊本まで(一年)、亡き叔母さま(一年)、戦地の兄へ(一年)、昨日の日記(二年)、春(二年)、雨二題(二年)、思ひ出(二年)、お見舞い(二年)、たんぼ(二年)、鴨(二年)、キス釣り(二年)、怪我(二年)、遠足の前夜(二年)、幸ちゃん(二年)、美千代ちゃん(二年)、ラ	21

	チオ (三年), 夫 (三年), 冬の夜 (三年), 鮭 (三年), 繙帯 (三年), 母 (三年), ウヘツ氣味が悪い (三年), 恐ろしい留守 (三年), 亡き友に (三年), 文鳥 (三年), 競争 (三年), 牛の家出 (三年), 小品二題 (四年), 壊されゆく水道タンク (四年), 哈爾濱のプロフィール (四年), 科學への憧憬 (四年), 句から小品文へ (四年), 歌から小品文へ (四年)。 讀後所感 (省略)。 非常時局と我等の覺悟 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年), 同 (四年)。	
詩苑	(省略)	100
趣味を培ふ	文藝部, 繪畫部, 習字部, 洋樂部, 和樂部, 仕舞部, 華道部, 茶道部, 家事部。	127
	前會長朝香先生を送る。	139
學校記事	送別會, 第二回陸上大運動會, 針供養と學藝會, 創立第三回の記念日を迎へて, 現職員名簿, 職員異動, 昭和十二年度正副級長氏名, 學校日誌抄, 自治會記事, 學友會記事。	144
校友會記事	昭和十一年度校友會役員, 各部便り (圖書部, 庭球部, 水泳部, 弓道部, 排球部, 園藝部), 昭和十一年度校友會費決算報告, 昭和十二年度校友會豫算報告。	162 179

以上、1938年に発行された異なる地域、異なる校種、10校の校友会雑誌について、構成及び主要題目の比較からは、以下の特徴や傾向を確認することができる。

勅語や内閣の告諭等は、①台湾の嘉儀中学校や台北第一師範学校では冒頭に掲載され、②台北第一師範学校は総督の諭告や軍司令部の警告等も冒頭を飾っている。③京城公立中学校と東萊日新女学校はいずれも朝鮮総督府による皇国臣民ノ誓詞(1947年10月)を掲載するが、④ミッションスクールの東萊日新女学校は誓詞の前に聖句を掲載している。他方、⑤大連、旅順、豊原、新京、奉天の各学校では勅語、告諭等の巻頭掲載はみられない。

学校関係者や近親者の出征や戦死者など、身近な戦争体験については、①京城公立中学校は「支那事變本校卒業生戦死者」「支那事變本校職員應召出征者」が、台北第一師範学校でも「濱崎先生ノ出征ヲ送ル」が、冒頭の口絵欄を飾っている。生徒による散文等においては、「空襲警報」「空襲」(嘉義中学校)、「戦地に濱崎小池両先生を送つて」「戦地に渡邊次男さんをおくつて」「叔父の戦傷」(台北第一師範学校)、「叔父さんの出征を見送る」「兄の出征」「戦死」「長野先生の出征を見送る」「叔父の戦死」「故作江伍長家を訪れて」「従兄の戦死」「防空演習」「戦時下の夜」(京城公立中学校)、「出征軍人の見送り」(東萊日新女学校)、「出征軍人を送りて」「皇軍將士慰問文集」(豊原中学校)、「戦地の兄へ」(奉天朝日高等女学校)など、戦争と死が生徒たちの身近に迫ってきている様子がうかがえる。また、大連第二中学校では、生徒が直接体験した戦闘の様子が「戦塵餘談」として記載される。ほかにも、慰問袋」(嘉義中学校)、「皇軍將士慰問文集」(豊原中学校)、「親愛なる水兵さん」(東萊日新女学校)など特集欄を設定している学校もある。他方で、生徒自身の記述としては全く掲載されない校友会雑誌(台北第一高等女学校、旅順高等女学校・旅順女子師範学校)もある。

支那事変に対する所感や覚悟を表明する記述、戦争における日本軍の活躍を期待する記述がある。「昭和青年の覺悟」「心は戦場に飛ぶ」(以上、嘉義中学校)、「我等國民の使命」「大和民族の血」「支那事變と皇民化運動」「支那事變雜感」「支那事變に際して」「國民精神總動員の意義と陸軍墓地清掃作業実施後感」「國民精神強調週聞」「我々の覺悟」(以上、台北第一師範学校)、「支那を論ず」「支那事變所感」「皇軍を讚す」(以上、京城中学校)、「支那事變について」「北支事變に就いて」(以上、東萊日新女学校)、「時局に対する覺悟」(大連第二中学校)、「非常時局に於ける我等の覺悟」「我が帝國の使命」「非常時と我らの覺悟」「我等の覺悟」「銃後の使命」「時局に處する我らの覺悟」「我が覺悟」「國民の覺悟」「時局に處する我々の覺悟」(以上、豊原中学校)、「非常時局と我等の覺悟」(奉天朝日高等女学校)、などである。なお、東萊日新女学校の校友会雑誌において時局に関わる文章が日本文に集中していることも、特徴の一つとしておきたい。

## 6 成果と課題

本稿では、台湾総督府、朝鮮総督府、関東庁、樺太庁、南洋庁、「満洲国」における中学校、高等女学校、師範学校の校友会雑誌に描かれ、表象されたアジア認識の特色や傾向を検討する際の史料分析について、斉藤・市山(2008)や関連する研究との関係を中心に考察を加えてきた。今後は、日本人を中心とした学校に加え、台湾や朝鮮半島、中国出身者が一定数在籍した学校、私立学校等の校友会雑誌の収集をすすめるとともに、本稿では紙幅の都合で詳しく触れることがなかった、日本と東アジア一円を対象とした修学旅行の記述など、多様な記述を検討対象として、校友会雑誌の構成面の比較、記述の具体的な分析、横断的な比較等を試みていきたい。

※本研究は、JSPS科研費25285209の助成を受けたものである。

(This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 25285209.)

基盤研究B「戦前期における中等諸学校（師範学校）生徒のアジア認識に関する総合的研究（2013年度～2015年度）」（代表：梅野正信，研究分担者：斉藤利彦，高吉嬉，國分麻里，研究協力者：市山雅美，歌川光一，海外研究協力者：呉文星，徐鍾珍，金恩淑，牛志奎）

※本稿に用いた校友会雑誌のうち，学習院大学文学部教育学科所蔵の雑誌については斉藤利彦氏の，玉川大学教育博物館所蔵の雑誌については白柳弘幸氏のご厚意で閲覧を許された。感謝の意を表したい。

## 引用文献

- <sup>1</sup> 文部省学生部『校友会雑誌等の出版物に現れたる中等諸学校生徒の思想傾向』1932年3月。国立国会図書館 近代デジタルライブラリー <http://kindai.ndl.go.jp/>。
- <sup>2</sup> 中等学校生徒のアジア認識の特徴を時期ごとに抽出した作業としては，拙稿「中等諸学校生徒のアジア認識の生成と相克」，斉藤利彦編『学校文化の史的探究』東大出版会，2015年（刊行予定）。
- <sup>3</sup> 斉藤利彦・市川雅美「旧制中学校における校友会雑誌の研究」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第48巻，2008年，pp.485-461。
- <sup>4</sup> 古谷哲夫編『近代日本のアジア認識』京都大学人文科学研究所，1994年。
- <sup>5</sup> 青木保「近代日本のアジア認識 文化の不在」『近代日本文化論2 日本人の自己認識』岩波書店，1999年。
- <sup>6</sup> 並木頼寿『日本のアジア認識』山川出版社，世界史リブレット66，2008年。
- <sup>7</sup> 生徒を研究対象としたものとして，『批判植民地教育』社会評論社，2000年。佐野通夫『日本植民地教育の展開と朝鮮民衆の対応』社会評論社，2006年。山本禮子『植民地台湾の高等女学校研究』多賀出版，1999年。などがある。
- <sup>8</sup> 海外に設置された中等学校における教育制度の比較は小島勝「外国と植民地における日本人児童生徒の教育－その連続性と非連続性－」（『日本植民地教育史研究会年報』第1号，皓星社，1998年，pp.91-111）に詳しい。
- <sup>9</sup> 白柳弘幸「公学校修身書における軍事教材」では教科書の整理分析が行われている（pp.44-62）。また『植民地教育史研究年報』第14号（2012年）は，山本一生「『南満教育』における新教育の思潮」，岡部芳広「『台湾教育』と『第一教育』に見る新教育」，韓炫精「植民地朝鮮における『新教育』－『文教の朝鮮』の言語教授法記事を中心に－」など，教育関係雑誌の記事を取り上げた研究がみられる。
- <sup>10</sup> 前掲，斉藤利彦・市川雅美，pp.435-436。
- <sup>11</sup> 斉藤利彦ほか『旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化 基盤研究（B）2009～2012年度科学研究費補助金研究成果報告書（第一集）』2011年。
- <sup>12</sup> 朝鮮総督府学務局『昭和十八年度 朝鮮諸学校一覧』（『日本植民地教育政策史料集成 朝鮮編』第62巻，龍溪書舎，1988年）ほかを参照。
- <sup>13</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。本機関所蔵史料は白柳弘幸氏の御厚意で閲覧等を許していただいた。以下「玉川大学教育博物館所蔵」と記載する史料は総て同様である。
- <sup>14</sup> 国立台湾図書館所蔵。館所蔵。本機関所蔵史料は国立台湾図書館所蔵。館と呉文星氏の御厚意で閲覧等を許していただいた。以下「国立台湾図書館所蔵」と記載する史料は総て同様である。
- <sup>15</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>16</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>17</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>18</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>19</sup> 国立台湾図書館所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>20</sup> 国立台湾図書館所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>21</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>22</sup> 国立台湾図書館所蔵，玉川大学教育博物館所蔵，学習院大学教育学科所蔵。学習院大学教育学科所蔵史料は斉藤利彦氏の御厚意で閲覧等を許していただいた。以下「学習院大学教育学科所蔵」と記載する史料は総て同様である。
- <sup>23</sup> 国立台湾図書館所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>24</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>25</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>26</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>27</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>28</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>29</sup> 国立台湾図書館所蔵，大阪府立図書館所蔵。

- <sup>30</sup> 玉川大学教育博物館所蔵，国立台湾図書館所蔵。
- <sup>31</sup> 国立台湾図書館所蔵。
- <sup>32</sup> 台南大学図書館所蔵，国立台湾図書館所蔵。
- <sup>33</sup> 韓国国会図書館所蔵，日本国会図書館所蔵，ソウル大学所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。韓国国会図書館所蔵とソウル大学所蔵の史料は徐鐘珍氏の御厚意で閲覧等を許された。
- <sup>34</sup> 京福高等学校所蔵。
- <sup>35</sup> 京畿高等学校所蔵。
- <sup>36</sup> 韓国国会図書館所蔵。
- <sup>37</sup> 日本国会図書館所蔵。
- <sup>38</sup> 韓国国会図書館所蔵。
- <sup>39</sup> 韓国国会図書館所蔵。
- <sup>40</sup> 韓国教員大学校教育博物館所蔵。韓国教員大学校教育博物館及び金恩淑の御厚意で閲覧等を許していただいた。以下「韓国教員大学校教育博物館所蔵」と記載する史料は総て同様である。
- <sup>41</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>42</sup> 韓国国会図書館所蔵。
- <sup>43</sup> 韓国教員大学校教育博物館所蔵。
- <sup>44</sup> 韓国教育大学校教育博物館所蔵。
- <sup>45</sup> 上越教育大学所蔵。
- <sup>46</sup> 韓国教員大学校教育博物館所蔵。
- <sup>47</sup> 韓国教員大学校所蔵。
- <sup>48</sup> 韓国教員大学校教育博物館所蔵。
- <sup>49</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>50</sup> 韓国教員大学校所蔵。
- <sup>51</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>52</sup> 学習院大学教育学科所蔵。
- <sup>53</sup> 上越教育大学所蔵。
- <sup>54</sup> 玉川大学教育博物館所蔵，学習院大学教育学科所蔵。
- <sup>55</sup> 上越教育大学所蔵，学習院大学教育学科所蔵。
- <sup>56</sup> 上越教育大学所蔵，学習院大学教育学科所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>57</sup> 上越教育大学所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>58</sup> 上越教育大学所蔵，玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>59</sup> 玉川大学教育博物館所蔵。
- <sup>60</sup> 学習院大学教育学科所蔵。
- <sup>61</sup> 前掲，齊藤，市山論文，pp.449-450。
- <sup>62</sup> 「校友会雑誌誌面の構成（創刊号）」，前掲齊藤・市山（2008），p.449。
- <sup>63</sup> 前掲，古谷哲夫『近代日本のアジア認識』。
- <sup>64</sup> 前掲，青木保「近代日本のアジア認識 文化の不在」。
- <sup>65</sup> 前掲，並木頼寿『日本のアジア認識』。
- <sup>66</sup> 尾崎ムゲン「教育雑誌にみるアジア認識の展開」，古谷前掲書，p.300。
- <sup>67</sup> 伊藤之雄「日清戦前の中国・朝鮮認識の形成と外交論」，古谷前掲書，pp.103-171。
- <sup>68</sup> 呉宏明「近代日本の台湾認識」，古谷前掲書，pp.221-241。
- <sup>69</sup> 古谷前掲書pp. i - ii。
- <sup>70</sup> 山室信一「アジア認識の基軸」，古谷前掲書，pp.3-5
- <sup>71</sup> 前掲青木「近代日本のアジア認識 文化の不在」，p.90。
- <sup>72</sup> 前掲古谷『近代日本のアジア認識』p. i。

# Study of Asia image drawn on the Alumni magazine in colonial secondary school – Focus on research methods –

Masanobu UMENO\*

## ABSTRACT

Alumni magazines were compiled by high schools, girls high schools and normal schools that were established under the Japanese colonial rule. Alumni magazines, which were censored by Authorities or the Japanese government, are historic materials in that they were written by students at that time. This study considers the image toward Asia described in Alumni Association magazine, which was published in Taiwan, Korean Peninsula, Dalian, Sakhalin and Manchuria. Alumni magazines in these areas have not been studied so far. This study has made clear a method of historical analysis of the structure of the magazines and various essays.

---

\* School Education